

死者を葬るー古墳と古墓の出土品

人は死に対して「おそれ」をいだき、死後の安楽を願う。その思いは葬り方に反映し、時代によってさまざまに変化する。



菅原東埴輪窯跡 円筒埴輪



杉山古墳 朝顔形埴輪・円筒埴輪



南新コモ川古墳・甲冑形埴輪



- 埴輪 杉山古墳（円筒埴輪・朝顔形埴輪）・古墳時代中期（5世紀）
 菅原東埴輪窯跡（円筒埴輪）・古墳時代後期（6世紀）
 南新コモ川古墳（甲冑形埴輪）・古墳時代中期（5世紀）
 法蓮ヤイ古墳（人物埴輪）・古墳時代後期（6世紀）

埴輪には土管形の円筒埴輪と家、武器武具、人物、動物などのかたどった形象埴輪がある。円筒埴輪は弥生時代の祭祀に用いられた壺をのせる器台から発展したもので、形象埴輪は古墳祭祀の情景を表現したものとみられている。

法蓮ヤイ古墳・人物埴輪



家形埴輪 杉山古墳
古墳時代中期（5世紀）

古墳に並べられた土製品である埴輪のひとつで、形象埴輪のなかでも家は最も早く現れる。切妻造の平屋で、神社で見られるような堅魚木^{かつおぎ}を屋根にのせ、太い棟木と破風形、棟覆いを綾杉文、棟押さえを突帯で表現する。角柱と板状の桁・梁の組み合わせもわかり、古墳時代の建物のあり方がうかがえる。正面中央が扉口で脇間と側面に窓を設けた開放的なつくりから祭殿的な建物とみられる。



陶棺 赤田横穴墓
古墳時代後期（6世紀）

埴輪づくりの技術を応用した素焼きの棺。表面に赤色顔料が塗られる。奈良市西北部は古墳や埴輪づくりをおこなった土師氏（菅原氏・秋篠氏）の本拠地で、こうした陶棺を納めた横穴墓は土師氏にかかわる人々の墓とも考えられている。



羽釜形蔵骨器 古市城山遺跡
室町時代（15世紀）

煮炊きを使う羽釜土器を火葬骨の蔵骨器としたもの。被葬者の法名、没年月日、経文、梵字などを墨書する。中世に墓地は仏教の民間への普及定着を背景に供養参拝の場となっていく。